

新技術の導入による 効率的で安定的な水田農業の確立

結城地域は、管内の耕地面積の6割が水田で、水稻や麦、大豆が地域農業の大きな柱になっています。近年は担い手への農地集積が進む一方で、過重労働や作業競合が問題となるだけでなく、戸別所得補償制度の下で麦や大豆の収量・品質向上も急務となっています。そこで、当普及センターでは市町やJAと協力して、直播による作期分散や省力・低コスト水稻栽培、湿害軽減技術による麦・大豆・そばの収量・品質向上に取り組みました。

■ 水稻乾田直播栽培の導入 ■

水田農業経営の省力・低コスト化を実現するため乾田直播栽培の導入を推進しました。代かきが必要なく、4月上旬に播種ができるため、移植栽培との労働の競合が避けられます。グレンドリル・パワーハローなど既存機械を利用することによって、導入コストを抑えた技術を現地で実証しました。その結果飼料米（ホシアオバ）で移植栽培並みの収量が得られ、移植栽培より生産コストを8%削減することができたことから、農家の関心が高まっています。



乾田直播栽培技術の現地検討会



専用機による水稻湛水直播

■ 水稻湛水直播栽培の取り組み ■

鉄コーティング種子による湛水直播栽培を実施し、収量は469kg/10aで、比較した移植栽培の収量489kg/10aとほぼ同等でした。基肥一発肥料を用いることで、さらに省力化することもできました。

地域の担い手に農地が集積し規模拡大が進んでいる現在、省力化技術の1つとして注目されています。

■ 麦・大豆・そばの品質向上対策の推進 ■

麦や大豆、そばの湿害対策として、播種機に溝切り装置を取り付け、施肥・播種と同時に簡易な明渠を設置する作溝同時播種について、機械メーカー2社と連携して2ヵ所に麦実証ほを設置しました。その結果、排水性が向上して収量・品質の向上につながり、中には慣行区の1.5倍の収量を上げた実証ほもありました。

現地検討会参加者のアンケートでは、約8割の人が導入を希望するなど、関心が高いといった結果を確認することができました。



麦湿害対策としての作溝同時播種